

作品 No.124



生きものの“つぶやき”：
「カナ？カナ？カナ？」

エッセイ：

木の枝に止まっているヒグラシを見つけた。何か変だ。ヒグラシの腹部に白い物体が2個くっついている。ヒグラシは近寄ると飛んで逃げたが、弱っているのか上手く飛ばずに近くの木の幹にへばりつくように止まった。この白い物体はその名もセミヤドリガの幼虫で、ヒグラシに寄生して体液を吸って生活している。

ヒグラシが「何かくっ付いているのかな？どうなっているのかな？気のせいかな？・・・」とあれこれ悩んでいる心の声が鳴き声になって「カナ？カナ？カナ？」と私に聴こえてきた。このヒグラシの鳴き声に交じって、別の「カナ？カナ？カナ？」の泣き声が聴こえた気がした。それは、地球の資源を吸い取って生活している人間によって弱っている地球が「資源はまだもつのかな？生き物たちは暮らしていけるのかな？人間も大丈夫なのかな？・・・」と悩んでいる心の声なのかな？(362字)

生きものの紹介：

名前：ヒグラシ、カメムシ目、セミ科

発生時期：6月下旬～9月中旬

分布：日本を含む東南アジア

特徴：「カナカナカナ」の甲高い鳴き声

名前：セミヤドリガ、チョウ目、セミヤドリガ科

発生時期：7月下旬～10月下旬

分布：本州（栃木県～新潟県を結ぶ線より西）、四国、九州（南部を除く）、韓国、台湾

特徴：幼虫がセミに外部寄生

撮影場所・日時：

松阪市森林公園（三重県松阪市）・2021年8月10日

応募者の自己紹介：

1. 松口歩佳／大阪府立園芸高等学校・2年
2. 所属：ビオトープ部
3. 将来の夢：農業学校の先生

審査委員会からのコメント

セミにガの幼虫が寄生して、動きや鳴き声がぎこちなくなっていたそうです。エッセイでは、この関係性を地球と人間の関係にもなぞらえていて、写真とエッセイの完成度は「とてもよきカナ！」です。この幼虫がどのようにしてセミにくっつくことができたのか考えてみるとおもしろいでしょう。